

人心鏡
通
卷

定

13
2946
209



特
2946
209

207

叙

工粉樓照魔鏡あり。忠臣蔵阿房鏡あり。影須
拔鏡は凹なる。懐中鏡の四角あり。己恍惚鏡は珠子のも。
水鏡は悟るのとも人の心乃己うきまぐ。或は照り或は曇り鬼
も佛と云つせざる。胸の鏡は善悪邪正を竹は筒と
振り出さ。譬喩方便は靈液なり。思ふにけつるの鏡。
出さく。人心鏡寫繪と標題とふくまふ。稗史と

烟草入見世おひ

山東京傳誌

寛政八丙辰 春日出度日



あ
あ
あ





此の馬車は、
 江戸の御用車
 といふ。其の
 形は、此の如
 きなり。馬は、
 二匹を引、一
 人をして乗せ
 たり。其の車
 内には、乗客
 あり。此の馬
 車、江戸の御
 用車といふ。

此の馬車は、
 江戸の御用車
 といふ。其の
 形は、此の如
 きなり。馬は、
 二匹を引、一
 人をして乗せ
 たり。其の車
 内には、乗客
 あり。此の馬
 車、江戸の御
 用車といふ。



此の人物は、
 江戸の御用車
 といふ。其の
 形は、此の如
 きなり。馬は、
 二匹を引、一
 人をして乗せ
 たり。其の車
 内には、乗客
 あり。此の馬
 車、江戸の御
 用車といふ。

此の人物は、
 江戸の御用車
 といふ。其の
 形は、此の如
 きなり。馬は、
 二匹を引、一
 人をして乗せ
 たり。其の車
 内には、乗客
 あり。此の馬
 車、江戸の御
 用車といふ。









